

進路だより 十か草

進路だより 第759号

令和元年9月12日(木)

多治見高校進路指導部

志望校から受験校へ

夏休みも終わり、3年生も「志望校」から「受験校」へと少しずつ気持ちを切り替える時期に入りました。この夏は十分勉強時間を確保できたでしょうか？

ベネッセコーポレーションのデータによると、「夏休みに最も時間を割いた勉強は？」という問いに対し、大学合格者の91%が「基礎の徹底と苦手克服に時間を割いた」と答えています。その大切さは常時話してきたので、しっかり取り組んできたことと思います。いよいよ9月以降は、応用問題に時間を費やしていきましょう。

さて、今年度の入試は最後の「センター試験」となります。次年度の入試からは「大学入学共通テスト」となり、3年生にとっては「ここで決めたい」、「現役で決めたい」という気持ちになり、弱気な出願へと気持ちが揺らぎはじめることも予想されます。

この時期に重要なことは、志望校に進学したい思いがどれくらいあるかということです。早期に受験結果が判明するからという理由や、センター試験を受けて国公立入試に挑むのは難しそうだからなど逃げの理由で受験しようとする後悔することになります。安易な選択により入学後の中途退学ということにもなりかねません。受験校、そして受験方式についてしっかり考え、「これでいく」という心構えをしっかりとちましましょう。

校内では、9月2日に指定校、9日に公募制の推薦説明会を、3・4日にはセンター試験出願説明会を開催しました。9月末からはセンター試験の出願が開始となります。実際に出願のための志願票を下書きしたことで、受験に挑むという気持ちになったと感想を述べる生徒もいました。周りが推薦やAOに出願すると、焦りが出たり、気持ちが揺れ動き流されてしまいがちです。そうなることなく、自己の信念のもと、初心にかえり何を学びたいか、将来何になりたいかをもう一度思い出してみましょう。

(文責：堀)

『3年の窓』 逆算して考えよう

いよいよ3年生の後期となります。ということはつまり、もう受験まで半年足らずしかありません。そこで皆さんに聞きたいのですが、受験までの見通しは立てていますか。ここでいう見通しというのは、どのように進めれば受験当日にピークを持っていけるか、という話です。例えばスポーツ選手は大きな試合が数か月後に控えているとして、その試合に最高のコンディションで臨めるように、何か月前からトレーニングの計画を立てるとしています。試合前日に身体を大きくするための筋力トレーニングをする、なんてことはありませんよね。

科目によりますが、センター試験であれば1月18日に、国公立の二次試験であれば2月25日にいい状態を迎えられなければ意味がありません。私立大学の個別入試で合格することを目指すのであれば、その入試日程に合わせて考える必要があります。どんなに勉強したとしても、その日にできなければ何の意味もありません。逆に言えばそれまで模試でできなくてもその日に問題が解ければいいわけです。

各教科で、どの分野を何日までに進めれば志望大学の入試に間に合うのか、を逆算してみましょう。もちろん、一度で覚えられないなんてことはありませんから、複数回繰り返すことと、見直す時間をとることが前提です。そうすると、今日何をすればいいのか、どこまでやればいいのか、が見えてきます。ここで気を付けたいのは、一回にやることを幅広くしすぎないことです。一気に一つの教科の教科書100ページ分をやったとしてもおそらくやった一時間後には10ページも覚えられていないと思います。しかしあまりゆっくりやっても間に合いませんのでどこで折り合いをつけるか考えなければいけません。

皆さんの中には、模試で結果が出なくて危機感を感じている人(残念ながら中にはそう思えない人もいますが)もいるかと思いますが、しかし、今日はここをやろう、という意識を持っていれば、模試も目標をもってできるかと思いますが。ただやみくもに解けなかった、というよりは、しっかりやって分野だけでも点は稼げた、という方が大きな自信に繋がります。これから先模試が続く中で結果を出すことも必要ですが、最終的な終着点は志望校の合格です。

AOを受ける人、推薦を受ける人、一般入試一本に絞る人、様々にいるかと思いますが、それぞれ自分が目指す志望校の入試日を念頭に置いてまず何からやっていくかを考えてみてはいかがでしょうか。

(文責：安藤)

♪2年の窓♪

9月5日(木)に卒業生と語る会が開かれました。このような会や教育実習などのために、卒業生が帰ってきてくれることは、後輩である皆さんにとって貴重な機会であるだけでなく、私達教員にとっても嬉しいひと時です。合格を目指して一緒に頑張っていた高校時代を思い出すと同時に、大学でいろんなことに挑戦している姿を眩しく感じます。それと同時に、いま教えている学年の中で、次は誰がこういう機会に後輩に話をしに来てくれるのかなと想像して、いつも楽しみにになります。

何が言いたいのか?皆さんのストーリーはもう始まっているということが言いたいです。勉強に部活に奮闘した日々はもちろんのこと、新入試に向かって時代が刻々と動いていく中で、皆さんが情報を得ること、日々の学習に黙々と取り組むこと、そして、手探りながらも友達と相談しあってこれがベストと思えることを決定していったこと、その全てが後輩に語る大事な財産になります。

9月19日の学年集会では、入試に向けての準備、特に英語外部試験の話を詳細にします。目前にせまる期末考査に向けてしっかりと準備しながらも、自分に必要なことの申込に遅れないよう、自分で考え、決断をしていきましょう。
(文責:桑原)

♪1年の窓♪

さて今回は、進学校に通わなかったある高校生のお話をしたいと思います。みなさん、毎日のように宿題に追われ、週末テスト、進研模試、休み明けテストや定期考査と毎日の勉強が大変だと思います。しかし、この勉強量が大学受験において幅広い進路選択を可能にしていると気づいていますか。

ある高校生は工業高校に通い、部活動中心の生活を送っていました。学校の先生も進学を意識させることはせず、「工業の技術を身につけ、社会でたくましく生きてゆけ。」という教えでした。週末課題や週末テストは全くなく、テストも中間考査と期末考査のみでした。当然、進研模試などありません。ある高校生も高校2年になり、進路を考える時期になり、担任や工業の先生に「大学へ行きたい」と申し出ました。ところが、「指定校推薦以外で大学に行ける訳がない」と猛反対を受けました。ある高校生は、学校の勉強は普通にやっていたので、先生たちが何を言っているのかわかりませんでした。

高校3年になり、全国模試を受けてみたら愕然としました。「問題の難易度が違う」「習っていない問題がたくさんある」等、手も足も出ませんでした。学校の授業と大学入試は全然違うんですね。それに加え、授業の半分が実習だったので、基礎知識が全く足りませんでした。この事実気づいたのが、高校3年の夏で完全に手遅れでした。

結果、ある高校生は部活の実績で大学に合格することはできましたが、勉強で進学できたわけではありませんでした。

皆さん、もしも宿題やテストで勉強が辛くなったら、大学受験のスタートラインに立たせてもらっているんだと思ってみるのはどうでしょうか。それにもしかしたら才能が開花して東京大学に行けるかもしれせんよ。
(文責:赤石)

「大学入試英語成績提供システム 共通ID」について

2年生については、入試改革に伴いセンター試験から「大学入学共通テスト」(以下、共通テスト)に代わります。最初の試験が2021年1月16日(土)・17日(日)に実施されます。

記述式問題の導入のほか、センター試験からの大きな変更点として挙げられるのが英語の変更です。センター試験では「筆記」「リスニング」が課されていましたが、「共通テスト」では、「筆記」は「リーディング」に名称が改称され、配点が200点から100点に変更、一方で「リスニング」の配点は50点から100点に変更となり、「リーディング」と同配点になります。

さらに「共通テスト」では、英語の評価に外部の民間資格・試験の成績が利用されることが決まっています。英語の成績を問う方法は、大学入試センターが利用する「大学入学共通テストの英語」と「英語外部検定試験の英語」のふたつのテストを並行される仕組みとなっています。この方法は2023年度まで実施されます。

これからの英語外部検定試験では、今後「大学入試英語成績提供システム」に参加するG-TECや英検などを受検することになりますが、その上で必要になってくるのが「大学入試英語成績提供システム 共通ID」です。2年生については11月1日から申請がはじまり、学校で一括しての申請となります。3年生については希望者のみの申請となります。
(文責 堀)